

## 北の壁, 古米・古古米・古古古米

北海道の農業事情は、47都道府県の中で最北端、特に亜寒帯の南限に位置し、農業上の有効積算温度が低く、かつ、農期間の無霜期間が短い。また数年に一度は冷害を受ける可能性が強く、作物栽培は一毛作がおもで、作物の種類も品種も限定されている。

また広大な農牧適地を持っているが、泥炭土・不良火山性土・重粘土などの特殊土壌が広く分布していて、これらの不良土壌を改良して耕地の生産力を上げることが、気候上の不良条件を克服することと合わせて農業発展上の重要問題となっている。

本道の耕地は全国の20.2%で、そのうち2.4%を占め本地は253,600 haあるが、実際昭和54年度の作付面積は172,600 haで本地の68.0%にすぎない。

ところで予想収量は502 kg、作況指数は107となって前年の536 kgより小さいが、52年・49年に次いで史上4番目の豊作となっている。

しかしながら、道食糧事務所で、昨年産以前の古米在庫を調べたところ、実に1,004,712 tに達し本年産米の政府買い上げ予定数量730,000 tを大幅に上回っていることがわかった。豊作続きによる余り米が招いた異状事態で農協倉庫はパンク寸前で、コメが食べられぬ古古古米になっている。古いコメは超安価で用途変更されることになるが、回り回って減反強化や消費者米価ヘシワ寄せされるのはかなわないという声が強い。ここで一つアルコール原料にでもして、省エネルギー対策に協力しては如何かね。

[ 財団法人 日本植物調節剤研究協会理事 三島 京治 ]  
北海道支部長

## 目 次 (第13巻第9号)

コンニャク栽培と雑草防除……………2	
〈宮城県農業センター 加藤清一〉	
は じ め に……………2	
1. コンニャクの生育と栽培……………2	
2. コンニャクの年生の呼び方……………3	
3. コンニャクの雑草防除……………4	
4. 今後の雑草防除上の問題点……………6	
花き栽培と生育調節剤……………6	
〈鯉淵学園教授 丸川慎三〉	
水稲のペーパーポット育苗と移植……………14	
〈ペーパーポット農業研究会 天辰克己〉	
1. は し が き……………14	
2. ペーパーポット苗の特色……………14	
3. 田植機による移植と管理……………17	
4. 良質米安定生産技術としての ペーパーポット稲作……………18	
外国文献抄録……………19	
新除草・調節剤	
植物成長調整剤「ミドリナール」……………22	
植調協会だより……………23	

表紙の写真は、ナガエコナスビの種実表皮細胞を走査電子顕微鏡で撮影したもの；網目突起型×3800。

〔写真提供者；笠原安夫氏〕